

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3597100050		
法人名	特定非営利活動法人 いい日の里		
事業所名	グループホームすこやか		
所在地	山口県大島郡周防大島町大字棕野1338番地5		
自己評価作成日	平成27年12月25日	評価結果市町受理日	平成28年7月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成28年1月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様のニーズに合った家庭的で心温まる介護、家族間の連携を大切に努めています。併設のデイサービスや小規模多機能サービスの利用者様と交流を持ったり、行事に参加したり他者との交流を持てるようにしています。月1回の誕生会も職員手作りの雰囲気大切に利用者様に喜んで頂けるよう心掛けています。利用者様の健康を第一に考え、まずは食からという事で食事には特に心を配っています。毎朝地元の朝市で新鮮な魚や野菜を買い求め、バランスの取れた少量で品数の多い副食を色とりどりで提供させて頂いております。食事は楽しみの一つとして、見て楽しく食欲増進できるよう旬な食材を取り入れ、多彩な献立を日々考えています。利用者様が皆さん食事で元気になられており、ご家族様からも高い評価を頂いております。1日三食を真心こめた手作りの品で提供させて頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者一人ひとりの個性を尊重した日常生活の支援のために、日中の玄関は開錠されており、敷地内は自由に入りされ、隣接する同法人他施設の職員や利用者との交流をされている他、その施設の健康器具を使用して肩や腰を温めることもできるように支援しておられます。敷地内での散歩や外気浴、敷地の外に出かけるときは職員と一緒に出かけ近隣の人と交流されておられます。かかりつけ医や他科の受診の際は職員が受診に同行して情報提供し医療との連携に努められ、適切な医療を受けられるように支援されています。受診後は家族に報告されています。ドライブを兼ねて軽食店を利用するなどの気分転換も取り入れておられ、入浴は一人ひとりゆっくり楽しむことができるように支援され、足浴やリンパマッサージの機会を通じて触れ合いながら言葉をかけられ、穏やかな雰囲気の中で利用者一人ひとりの生活のペースを尊重されて、寄り添う介護を実践されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者をはじめ職員全員で事業所理念の作成に取り組んだ。職員が理念を共有し実践に繋げていけるよう努力している。	月1回のミーティングで、地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念の作成について検討しているが、理念の作成には至っていない。	・事業所独自の理念の作成
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	周囲の地域住民の方とは挨拶や会話を通じて交流を深められるよう心掛けている。地域の行事がある時は出来るだけ参加するようにしている。地域のお店での買い物や法人のデイサービス利用者との交流も日常的に行われている。	利用者は、地域のお大師参りや船祭り、敬老会、選挙に出かけている。踊りやキーボード演奏での童謡や懐メロの弾き語り、フラダンス、お茶会などのボランティアの来訪がある。移動パン屋の利用や散歩や買い物、受診時に挨拶を交わし、地域の人と交流している他、魚や野菜、果物、花などの差し入れがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談での支援を周囲に周知しており理解と利用を求めている。認知症家族の会の訪問等機会を活かし地域貢献できるよう心掛けている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価について職員ミーティングで実施の意義を周知し、書類を配布し記入してもらった。その内容を踏まえ管理者、計画作成担当者、リーダーで話し合って自己評価をまとめている。	管理者は、自己評価の意義について職員に説明し、全職員に自己評価をするための書類を配付して記入してもらい、管理者と計画作成担当者でまとめている。全職員で自己評価に取り組み、業務マニュアルの見直しや運営推進会議の議事録の工夫など改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員・地域の方・地域包括支援センター職員・家族・職員での参加で2ヶ月に1回推進会議を行っており事業所の現状と報告をしている。気をつけるべき改善点等についても細かな話し合いと意見交換が行われている。	年6回開催し、利用者の現状や活動報告、事故・ヒヤリハット報告などをして話し合っている。会議に書記をする職員が参加することで議事録の改善をしている。防災に関して、月2回流れる無線放送を活かしてはどうかという意見を受けて、毎月1日と15日の無線放送時に消火器の位置確認や火元となりそうな箇所の清掃をしているなど、意見をサービス向上に活かしている。メンバーの拡大には至っていない。	・メンバーの拡大

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の 実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えな がら、協力関係を築くように取り組んでいる	指導や声掛け、意見を聞き入れて業務に生 かせる様に心掛けている。入所、退所の報告 を行う。問題が生じた時は時は相談と指導を 受けている。	町の担当者とは運営推進会議時に情報交換 したり、事業所から直接出向いたり、電話で相 談して助言を得ているなど、協力関係を築い ている。町主催の介護支援専門員の研修会 にも参加をして情報交換している。地域包括 支援センター職員とは、運営推進会議時に情 報交換しているなど、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サー ビス指定基準及び指定地域密着型介護予防サー ビス指定基準における禁止の対象となる具体的 な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて 身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。利用者様が安心 して過ごせる、安全な環境づくりを大切に考 えている。玄関の施錠はしておらず、見守り を常時行っている。	マニュアルがあり、法人研修で身体拘束につ いて学び、全職員が正しく理解している。玄 関は施錠せず、敷地内は自由に出入りでき、 敷地外に出かけるときは職員が一緒に出かけ ている。スピーチロックは職員同士で注意し、 ドラックロックはかかりつけ医と相談し対応し ている。身体拘束をしないケアに取り組んでい る。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法につ いて学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内 での虐待が見過ごされることがないように注意を払 い、防止に努めている	常に利用者の立場になって接している。利用 者の気持ちになって接しており複数の職員 でケアを行うようにしている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年 後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要 性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支 援している	全職員の熟知には達していないので、今後 制度について学びを深め必要な場面で活用 できるようにしていきたい。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者 や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を 行い理解・納得を図っている	利用者やご家族等、十分に納得した上で契 約している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	受付時に記録、報告し苦情の受け止めはできている。申し送りや会議、朝礼等で話し合い反省できるようにしている。職員が、情報を共有し、ご家族の要望に沿えるよう努力している。	契約時に苦情の受付体制や処理手続きについて家族に説明している。家族の意見は運営推進会議や面会時、電話で聞き取っている。利用者の個別対応に関する要望の他、事業所の玄関の整理整頓をして、置いているファイルを閲覧しやすいようにしてほしいとの家族からの意見があり、改善しているなど、反映している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のミーティングや朝のミーティングで意見、提案を出し検討、納得のいく形で終了するように時間を掛けて行っている。	月1回のミーティングや朝の申し送り時に職員からの意見や提案を聞く機会を設けている。他、日々の業務の中で管理者が聞いたり、申し送りノートを活用して把握に努めている。職員増員の要望があり、現在増員予定である。勤務時間や勤務内容についての職員の意見を取り入れ、業務内容の見直しや勤務時間帯の変更など、反映している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の業務にやりがいを持って取り組めるように環境や配慮、整備に努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアを実践していく中で不十分であると判断した課題を挙げ、検討している。助言や指導を大切に受け止め、働きながら学べるように支援していきたい。	外部研修は、情報を職員に伝え希望や段階に応じて参加の機会を提供している。認知症介護実践者研修に参加している他、町主催や町医師会主催の研修に参加をしている。法人研修は、月1回テーマ(個人情報保護法、接遇、入浴介助、食事介助、排泄介助、ノロウイルス、身体拘束等)を決めて、実施している。新人研修は、先輩職員が担当し働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネ協議会への参加、同業者との勉強会等に参加し、ネットワークづくりや相互連携をはかっている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の思いを親身に聞き、共感するよう心掛けている。信頼関係を築くようにしている。ニーズの把握に努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者、ご家族等と連絡を密にしていけるよう努力している。ご家族との会話も積極的にするよう心掛けている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	希望に沿ったプランは立てておりプランをもとにサービス支援を行っている。今後の声にも耳に傾けて進めていきたい。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を楽しんでもらうための対応、優しさケアを最優先としている。利用者の出来る可能なことは協力して行うようにしている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者のご家族の不安を取り除くように連絡している。ご家族とは一緒に協力して利用者を支えていきたいと思いますという気持ちでいつも接している。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	人との交流が少なくなっているため、出来るだけ馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援していきたい。施設内での人間関係を円滑にし大切にしていきたいと思う。	自宅周辺のドライブや馴染みの店での外食、馴染みの美容師が来訪して髪を切っている。家族の面会や親戚の人、友人、自宅の近所の人の来訪がある他、手紙や年賀状、電話での交流の支援をしている。家族の協力を得て、墓参りや法事、結婚式に出席しているなど、馴染みの関係の継続に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係が円滑に行くようアドバイス、声掛けを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて利用しやすい状況を作っている。ケアへのサービスで又利用したいと思ってもらえる関係を大切にしたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話を持つようにしているので聞き取れるような配慮を行っている。話を必ず聞くようにしておりコミュニケーションを大切にしている。	アセスメントシートの書式を新たに作成し、生活歴や習慣、こだわり、希望欄をつくり把握に努めている。日々の暮らしの中での利用者の言葉や様子を、支援経過記録や申し送りノートに記録し、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、家族から聞き取り本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント状況は利用者本人やご家族からの聴取等で把握に努めている。日常の会話を通して本人理解に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	言動や行動の観察を通じて現状の把握に努めている。希望を取り入れた過ごし方はできていると思う。工夫したやり方、過ごし方は促すようにしている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネ、看護師等のチームでモニタリングを行い作成するようにしている。今後の改善に繋がるのでモニタリングや会議を増やしていきたいと思う。	かかりつけ医や訪問看護師の意見、利用者や家族の意向を参考にして介護計画を作成している。モニタリングは3カ月に1回実施し、年に1回見直している他、利用者の状態に変化があった場合は、その都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報は引き継ぎ等で職員間で共有している。個別記録に気付いたことやその日のご様子等を詳しく記録するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の希望に沿って取り組んでいる。日々の生活が単調なものにならず、楽しみが持てるよう変化のあるケアも心掛けたい。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域全体の安全性の高さにより安心した生活は送っていただけていると思われる。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ病院に通院するようにしている。医師との連携、連絡を継続していきたい。今後も医師からの説明とケアのアドバイスを大切に守って行きたい。	本人や家族の希望を大切にかかりつけ医を決め、他科も含めて事業所で受診の支援をしている。訪問看護師との連携も図っている。緊急時や夜間は、かかりつけ医に連絡し指示を得て対応しているなど、適切な医療が受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	引き継ぎ等で情報を伝えている。報告、情報等的確に伝えられるよう必ず通院時にメモして職員に通知している。スタッフは看護職員への報告、連絡、相談を実践している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、経過や症状の他にこれまでの生活ぶりなどを詳しく伝えられるようにしている。また、退院の際には医師や看護師、地域連携室の職員との情報交換を密に行っており、対応の仕方など相談している。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの実践例がまだ無い。希望等があればご本人やご家族の希望を取り入れ、事業所としてできる事を検討し取り組んでいきたい。	重度化や終末期における対応の指針があり、契約時に事業所でできることを本人や家族に説明している。実際に重度化した場合には、かかりつけ医や訪問看護師、家族等関係者で、入院や移設を含めて話し合い、今後の方針を決めて共有し支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	月1ミーティングの際に急変時の対応について研修を行っている。全職員が応急手当の方法やスキルを向上させる為今後も研修を重ねていきたい。歩行の見守りや服薬確認等日々の業務にも職員間で声を掛け合って事故防止に努めている。	書式を変更し「事故・ひやりはつと報告書」を作成している。事故対応マニュアルも整備している。発生したその場にいた職員で対応策を検討し、申し送りで報告し再発防止に取り組んでいる。月1回のミーティングでも話し合い、利用者一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。応急手当や初期対応については、移動動作や転倒、誤嚥、AED、心肺蘇生について研修を実施しているが、全ての職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的訓練の実施継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣の方に声掛けをし、消防訓練を実施した。今後も事故の無い体制づくり災害時の避難訓練の実施を行ってきたい。	毎月1日と15日を防災の日とし、消火栓や消火器の置き場所の確認、日基になりうる箇所のほこり取りなどを行っている。消防署の協力を得て年1回の昼間想定避難通報訓練を実施している他、年1回事業所独自で夜間想定避難、消火、通報訓練を実施している。通報訓練は職員のみで行っている。訓練参加を地域の人に声かけしているが、参加は得られていない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりに合った対応に心掛けている。個性を考えた対応や、やさしく丁寧な言葉かけに努めている。	法人研修で、接遇や入浴、食事などの介助について学び、人格の尊重やプライバシーを損ねない対応や言葉かけをしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日中のADLへの働きかけが常に必要なのでその中での希望を見出していく努力を継続していきたいと思う。どのようにしたいのかご本人の意見をお聞きし対応するよう心掛けている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望に出来るだけ沿うようにしている。ゆっくりと時間をかけて対応していく必要があるので気をつけていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪の流れや爪切りなどを職員全員で支援している。フェイスクケアチェックを実施している。洋服の組み合わせなど一緒に考えながら支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	手伝ってもらえる方、意欲的に希望される方に手伝ってもらっている。職員は食事の輪に入り一緒に食事を楽しむようにしている。	三食とも法人の厨房からの配食を利用している。朝食の主食は希望に合わせてパン、ご飯を選ぶことができる。季節に合わせた献立、旬の野菜や魚を取り入れている。事業所でお茶会をしたり、花見弁当を持って戸外に出かけたり、ドライブを兼ねて軽食(蕎麦やラーメン、寿司)を楽しんでいる。利用者は自分のお茶を運んだり、洗った食器を拭いているなど、できることをしている。利用者と職員は同じテーブルを囲んで一緒に食事をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事面でのバランスは充分とれており摂取量も良好である。病状に応じて量や形状も工夫している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の洗浄、声掛けや介助で施行、状況に応じてうがいも実施して頂いている。記録も行っており忘れることが無いようにしている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄介助の方は特に注意している。個別支援として対応できている。失禁のある方への対応は特に気を使っている。自尊心を大切にし、優しい促しと誘導に努めている。	排泄チェック表を活用し、一人ひとりに合わせた声かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は野菜を多く取り入れ、果物も毎日摂取しておられる。水分補給にも留意し便秘にならない様心掛けている。体操の時間を設け便秘対策で動いて頂けるように配慮している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	声掛けや一部介助での入浴が実施できている。温度調節や衣類の選別に気をつけている。拒否があれば日にちを変えるか時間をずらし対応している。気持ちが良かったと思っ て頂ける入浴支援に努めている。	入浴は、土曜日、日曜日以外の9時から16時の間可能で、利用者の希望や体調に合わせて入浴できるように支援している。入浴をしない日は足浴を実施している。体調に合わせて清拭を行っている。入浴をたくない利用者には、時間や職員を変えたり、無理強いしないで日にちをかけて入浴ができるように支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別にて様子観察、昼寝に実施など見守りで対応している。個人の希望を大切にしご本人のペースで休憩がとれるよう配慮している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認、認知症の利用者には手に薬をのせて確実に服薬できたかまでの確認をしている。安心した状況が保たれている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中に活躍できる場面が見いだせるよう、出来る事を手伝って頂いたりしている。好きなCDを掛けたり、移動パン屋での買い物を楽しみにしておられる方への声掛けなど気分転換が図れるよう心掛けている。	編み物、ぬり絵、はり絵、折り紙、かるた、百人一首、トランプ、輪投げ、しりとり、カラオケ、テレビ視聴、懐かしい歌番組のDVD視聴、新聞や雑誌を読む、アクリルたわしづくり、新聞紙でゴミ箱づくり、漢字ドリル、計算ドリル、洗濯物干し、洗濯物たたみ、花壇の草取りや水まき、リンパマッサージ、温熱療法、筋力トレーニング、誕生会、お茶会、買い物、地域の祭りに参加(お大師祭り、船祭り)、ボランティアの弾き語りを聴くなど、活躍できる場面づくりや楽しみごとの支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1度買い物に出かけている。併設のデイサービス利用の方との交流はできているが外出も季節と機会を考えながら実施していきたい。	散歩、買い物、外食、ドライブ、お大師祭り、船祭り、花見(桜、花壇の花)、法人のデイサービスに出かけ利用者との交流、家族の協力を得て、墓参り、法事や結婚式への出席、外食など出かけられるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来るだけ本人希望を聞いているが事業内事務での管理が望ましいので紛失のないように気をつけている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人宛の手紙は手渡し、電話は直接話して頂いている。手紙の代筆も行っている。ご家族には毎月お便りを送付しており近況報告している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔で整頓された環境づくりや快適に過ごせるよう温度管理にも留意している。利用者が作られた作品や興味のある掲示物を設置している。思い思いに過ごせる居心地の良い空間作りに心掛けている。	共用の空間は明るさや温度、湿度、換気に配慮している。利用者の作品や季節に合わせた飾りつけをし、季節の花を生けて季節感を採り入れている。大型のテレビは決まった番組に合わせてスイッチを入れ、誰も見ないときはスイッチを切って静かな時間を確保している。台所は皿を洗ったり、お茶を沸かすことに使っている。利用者が混乱しないように、シンプルな空間づくりを工夫し、居心地良く過ごせるように支援している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室、ユニット型であり問題はないと思うが、集団生活の大切さも伝えていきたい。ホールでの過ごし方の配慮を行っている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の清掃、環境づくりに気を配り配慮している。好きなものを持ち込まれたり、自由性を大切にしている。家具の小物の配慮等、ご本人やご家族の希望を尊重し、相談しながら対応している。	ダンス、三段ボックス、衣装掛け、化粧台、CDプレーヤー、本、時計、カレンダー、化粧道具、空気清浄機、携帯電話、家族の写真など以後個と良く過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差もフローリングで問題ないと思う。混乱や怪我が無いよう表示等もしている。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームすこやか

作成日：平成 28 年 7 月 5 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35 (15)	事故発生時の応急手当や初期対応について、全ての職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	事故対応時の応急手当や初期対応について、全職員が実践力を身につける。	様々な応急手当や初期対応について演習を交えた研修を実施する。	1年間
2	36 (16)	消防訓練時の近隣住民の協力体制が構築できていない。	近隣住民の協力を得て消防訓練を実施する。	近隣住民へ書面を作成するとともに、直接配布し協力を得るよう依頼する。	1年間
3	5 (4)	運営推進会議のメンバーが縮小傾向である。	一名以上のメンバーの拡充を目指す。	欠員中の地域住民の出席者の開拓や、ご助言いただいた消防局の職員への出席依頼を促す。	1年間
4	1 (1)	事業所独自の理念の作成が出来ていない。	事業所独自の理念を作成する。	定期的なミーティングを継続し、作成を継続する。	1年間
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。